

平素は城北信用金庫をお引き立て賜りまして誠にありがとうございます。
 本パンフレットは、令和6年度上半期の事業概況をご報告し、皆さまに弊金庫についてのご理解を一層深めていただくために作成いたしました。ぜひご覧賜りますようお願い申し上げます。
 城北信用金庫は、今後とも皆さまに安心してお取引いただきいただけるよう努めてまいります。
 より一層のご支援を賜りますよう、役職員一同、心よりお願い申し上げます。

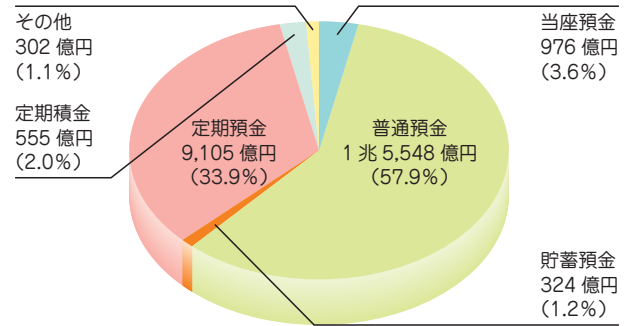
令和6年度上半期の業績概況

預積金残高は2兆6,812億円、貸出金残高は1兆3,070億円となりました。

小口のご契約を中心に、広く地域のお客さまにお取引いただきました結果、令和6年9月末の預積金残高は2兆6,812億円(3月末対比42億円増加)、貸出金残高は1兆3,070億円(同5億円減少)となりました。また、国債・証券投資信託・個人年金保険などの預かり資産残高は、587億円(※)(同77億円増加)となりました。

※9月末時価換算

●預積金残高の科目別内訳 (令和6年9月末)

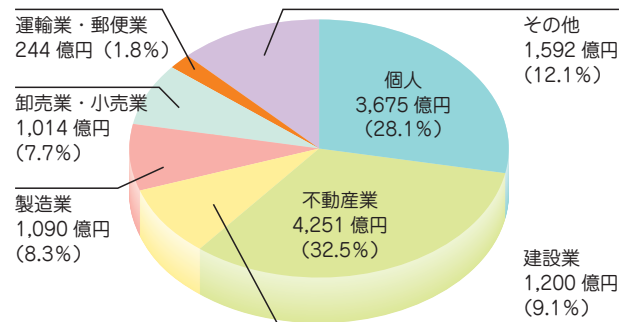


業務純益は30億円、経常利益は33億円、当期純利益は31億円となりました。

上半期は業務純益(※)30億円、経常利益33億円、当期純利益31億円を計上いたしました。引き続きコンサルティング機能の向上に努めつつ、営業店・本部・子会社が連携してお客さまの課題解決に取り組んでまいります。

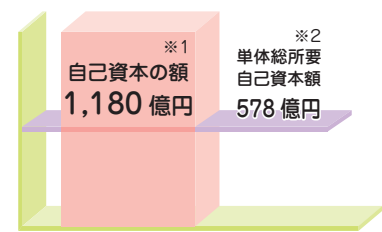
※利息・各種手数料・有価証券等の運用損益など金融機関本来の営業活動によって得られた利益

●貸出金残高の業種別内訳 (令和6年9月末)



1,180億円の自己資本を備えております。

9月末の自己資本の額(※1)は1,180億円(3月末対比30億円増加)になりました。貸出金・有価証券などにより構成されるリスク・アセット等の額の合計額は1兆4,460億円(同51億円増加)となり、自己資本比率は8.16%となりました。自己資本の額は、総所要自己資本額(リスク・アセットからみた当金庫が備えるべき自己資本の額(※2))578億円を大きく上回っており、「健全で問題のない金融機関」の国内基準を十分に満たしております。(いずれも単体ベース)



※1 単体自己資本比率算出上の分子の額
 ※2 リスク・アセット等の額の合計額(単体自己資本比率算出上の分母の額)×4%

きめ細かなコンサルティングでお取引先の経営改善・再生支援に努めた結果、金融再生法上の不良債権比率は3.49%となりました。

金融再生法上の不良債権は459億円、不良債権比率は3.49%となりました。なお、これらの債権については、担保・保証などによる保全に加え、相応の貸倒引当金も計上しております。

有価証券残高は8,750億円となりました。運用にあたっては、適切なリスク管理に努めております。

9月末の有価証券残高は8,750億円となりました。種類別では、国債(18.2%)・地方債(12.0%)などの国内債券が約5割を占めております。